

イ がんの早期発見・重症化予防

がんの重症化予防のために最も重要なことは、がんの早期発見、早期治療であるため、がん検診の普及啓発を行うとともに、がん検診を受診しやすい環境をつくることにより、がん検診の受診率の向上を図ります。また、がん検診で精密検査が必要と判定された方に精密検査の確実な受診を勧めるとともに、医療関係団体等と連携し、がん検診の精度の向上に取り組みます。

| 主な事業・取組                      | 概要の説明   |
|------------------------------|---|
| がん検診                         | がんの早期発見・早期治療のため、最寄りの医療機関で実施する個別検診、公民館等地域を巡回して実施する集団検診、広島市健康づくりセンターで実施する施設検診の方法により、胃がん検診、子宮がん検診、乳がん検診、肺がん検診、大腸がん検診を実施する。 |
| がん検診無料クーポン券等の配付              | 子宮がん検診、乳がん検診、大腸がん検診について、受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康意識の普及啓発を図るため、国の「がん検診推進事業実施要綱」に基づき、特定の年齢に達した市民に対し、がん検診の無料クーポン券等を配付する。   |
| B型・C型肝炎ウイルス検査                | 肝がんになる前に肝炎ウイルスの感染を早期に発見し治療を受けられるよう、B型・C型肝炎ウイルス検査を実施する。  |
| 1日人間ドック助成事業                  | 広島市国民健康保険の被保険者の疾病予防と健康増進のために、40・45・50・55歳の対象者が本市の指定する検診機関で指定する期間内に1日人間ドックを受ける際、検診料金の7割を助成する。                            |
| 様々な媒体等によるがん検診の受診勧奨           | がん検診に対する意識向上を図るため、広報紙、ホームページ、健康教室等において受診を呼びかける。   |
| ㊦広島県や関係機関・団体との連携によるがん検診の受診勧奨 | がん検診の受診率の向上を図るため、広島県や関係機関・団体との幅広い協力体制のもと、がん検診啓発キャンペーンの実施や、「元気じゃけんひろしま21協賛店・団体」のがん検診推進協賛（仮称）の設定などにより、がん検診の受診勧奨を実施する。     |
| がん検診を受診しやすい環境づくり             | がん検診を受診しやすい環境をつくるため、集団検診や施設検診における休日検診や託児の実施、特定健康診査との同時実施を行う。  |
| がん検診の精密検査の受診勧奨               | がん検診で精密検査が必要と判定された方で、精密検査を受診していない方を対象に、異常の有無や治療の必要等を確認するよう、精密検査の受診勧奨を行う。  |
| ㊦がん検診の精度管理及び事業評価             | がん検診の精度を高め、受診率の向上を図るため、「広島市がん検診精度管理連絡会議（仮称）」を設置し、医療関係団体等と連携してがん検診の精度管理及び事業評価を行う。  |
| 健康手帳の交付                      | がん検診や健康診査の受診結果等、健康に関する記録を記載し、健康管理に役立てるため、健康手帳を交付する。   |

（㊦：新規事業 ㊦：拡充事業）

## 【目標】

## ① がんによる死亡率の減少

がんの発症予防と早期発見により「がんによる死亡率の減少」を目指し、国が定める「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」の目標(以下「国目標」という。)の考え方(平成17年の75歳未満のがんの年齢調整死亡率の20%減少)に準じて目標を設定します。

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 目標項目   | がんによる死亡率の減少               |
| 指標     | 75歳未満のがんの年齢調整死亡率(10万人当たり) |
| 現状     | 78.2 (平成22年)              |
| 目標     | 69.3 (平成27年)              |
| データソース | 厚生労働省「人口動態統計」             |

## ② がん検診の受診率の向上

がんを早期に発見するため、「がん検診の受診率の向上」を目指し、広島県が定める「広島県健康増進計画『健康ひろしま21(第2次)』」の目標(50%)に準じて目標を設定します。

|        |   |
|--------|---|
| 目標項目   | がん検診の受診率の向上   |
| 指標     | がん検診の受診率  |
| 現状     | 胃がん 男性38.2% 女性28.8%、肺がん 男性24.1% 女性22.0%<br>大腸がん 男性25.5% 女性20.8%、子宮頸がん 女性40.2%<br>乳がん 女性35.2%(平成22年) |
| 目標     | 胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん 50% (平成28年度)   |
| データソース | 厚生労働省「国民生活基礎調査」<br>※40歳(子宮頸がんは20歳)から69歳までを対象とする。  |

## ③ 成人の喫煙率の減少

喫煙は様々ながんの発症に影響を及ぼし、禁煙することにより肺がんなどのリスクが禁煙後の年数とともに確実に低下するため、「成人の喫煙率の減少」を目指し、国目標の算定方法に準じて、現在の喫煙率(15.8%)から禁煙希望者が禁煙した場合の割合(31.7%)を減じた値(10.8%)を目標に設定します。

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 目標項目   | 成人の喫煙率の減少          |
| 指標     | 成人の喫煙率             |
| 現状     | 15.8% (平成23年度)     |
| 目標     | 10.8% (平成34年度)     |
| データソース | 広島市「市民健康づくり生活習慣調査」 |

④ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少

がんのリスクを高める要因となる多量飲酒を防止することは、がんの発症予防につながることから、アルコール摂取の適量の範囲を、1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g（日本酒では2合）未満、女性20g（日本酒では1合）未満と定義し、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少」を目指し、国目標の減少率（15%）に準じて目標を設定します。

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 目標項目   | 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少         |
| 指標     | 1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合 |
| 現状     | 男性 20.5% 女性 15.2% （平成22年）            |
| 目標     | 男性 17.4% 女性 12.9% （平成34年度）           |
| データソース | 広島市「市民健康・栄養調査」                       |